

輪島塗若手人材養成施設整備工事基本設計委託プロポーザル概要

1 趣 旨

近年、生活様式の変化等により伝統的工芸品の市場が縮小する中、令和6年に発生した能登半島地震と奥能登豪雨の二重災害により甚大な被害を受けた輪島塗の産地では、特に若い世代が将来に不安を感じ、災害を機に輪島の地を離れることを考える者も多く、次代を担う作り手の養成が課題となっている。

このような危機的状況を乗り越えるため、官・民・産地の連携により「輪島塗の若手人材の養成施設の創設」プロジェクトを進めることとしている。

プロジェクトにおいては、若手人材の養成施設に加え、工場や産業観光等、複合的な機能が必要であり、難易度の高い設計が必要となるため、プロポーザル方式により、優れた能力を有する建築士事務所を選定する。

2 設計条件

- (1)立地条件 場 所 : 輪島市水守町 地内
面 積 : 約 6,183 m² (整備予定地①: 719 m²、整備予定地②: 5,464 m²)
- (2)敷地条件 整備予定地は①及び②とする。
①: 準工業地域 (建ぺい率 60%、容積率 200%)
②: 第一種住居地域 (建ぺい率 60%、容積率 200%)
- (3)施設概要 構 造 : 木造(または一部鉄骨造) 2階建 を想定
延床面積 : 約 2,300 m²
(養成施設 約 1,520 m²、精漆工場 約 210 m²、
地の粉工場 約 270 m²、産業振興施設 約 300 m²)
用 途 : 養成施設等
主要室等 : 作業室、講義室、談話室、倉庫、事務室、工場、ショップ、
フリースペース、展示室
設備概要 : 電気設備、空調設備、給排水衛生設備、消防設備、
昇降機設備等
- (4)そ の 他 基本構想基本構想(詳細版 P9～P13、概要版 P10～P13)における平面配置、平面レイアウト、スケッチは構想策定時の参考イメージであり、これにとらわれずに計画すること。

(5)提案課題

輪島塗の作り手や観光客が集う「漆芸の聖地」にふさわしい施設計画について

<評価の視点>

- ・輪島塗の人材育成、情報発信を総合的に担う魅力ある配置・空間
- ・周辺景観と調和した「漆芸の聖地」にふさわしい外観デザイン

3 整備方針

(1)プロジェクトのコンセプト

輪島塗に関わる機関と連携して魅力を発信することで、国内外から人を輪島に呼び込み、輪島塗の作り手や観光客が集う「漆芸の聖地」を目指す

(2)整備の方向性

- ・「若手人材の養成施設」、「精漆工場」、「地の粉工場」、「産業振興施設」の機能を確保する。
- ・輪島塗の製造工程ごとに作業室及び設備・備品を確保する。
- ・産業観光の観点から、工場も含めて見学者を常時受け入れることを想定し、輪島塗をはじめとした工芸技術を施設の内装等に活用するほか、見学しやすい計画とする。
- ・輪島塗の製造工程の展示（見える化）や、生徒による作品展示、工芸品の製作体験のワークショップ等ができるスペースのほか、ショップや飲食可のフリースペースを設ける。

(3)施設計画・規模

機能	内容	規模
養成施設	・作業室①～⑦、講義室（2室）、談話室、応接室 倉庫（2室）、事務室	各50～100 m ² 程度 (計 750 m ² 程度)
精漆工場	・漆の精製・貯蔵等	210 m ² 程度
地の粉工場	・地の粉の乾燥等	270 m ² 程度
産業観光	・ショップ	50 m ² 程度
	・フリースペース	150 m ² 程度
	・展示室（2室）	各 50 m ² 程度
共用部	・廊下、階段、エレベーター、機械室等	770 m ² 程度
合 計		2,300 m ² 程度

4. 施設計画の留意事項

(1) 木材の利用

→内装材や家具に木材を使用し、心地よく、落ち着いた空間、あたたかみのある雰囲気づくりに配慮

→原則、県産材を利用

(2) ユニバーサルデザイン

→生徒や講師以外にも見学者を常時受け入れることを想定

(3) DXの推進

→オンラインでの講義、会議などが行える環境を充実

(4) GXの推進

→ZEB化について、費用対効果を考慮しつつ検討

(5) 施設の長寿命化

→耐久性、耐候性に優れる建材の使用

→将来の変化に対応可能なフレキシブルな空間や設備の検討

5. 整備予定地

